

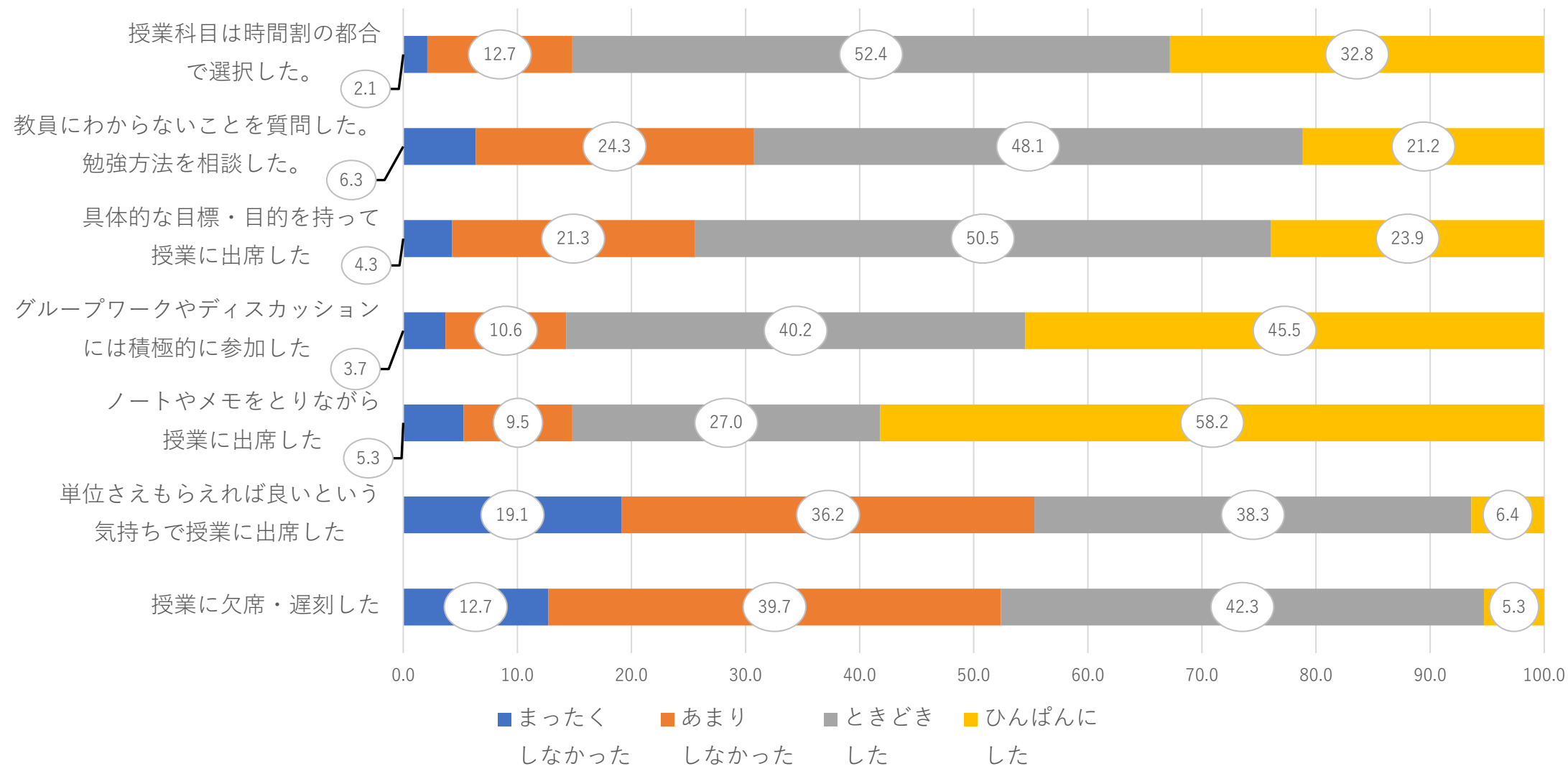
【外国語学部】

2024. 卒業時アンケート

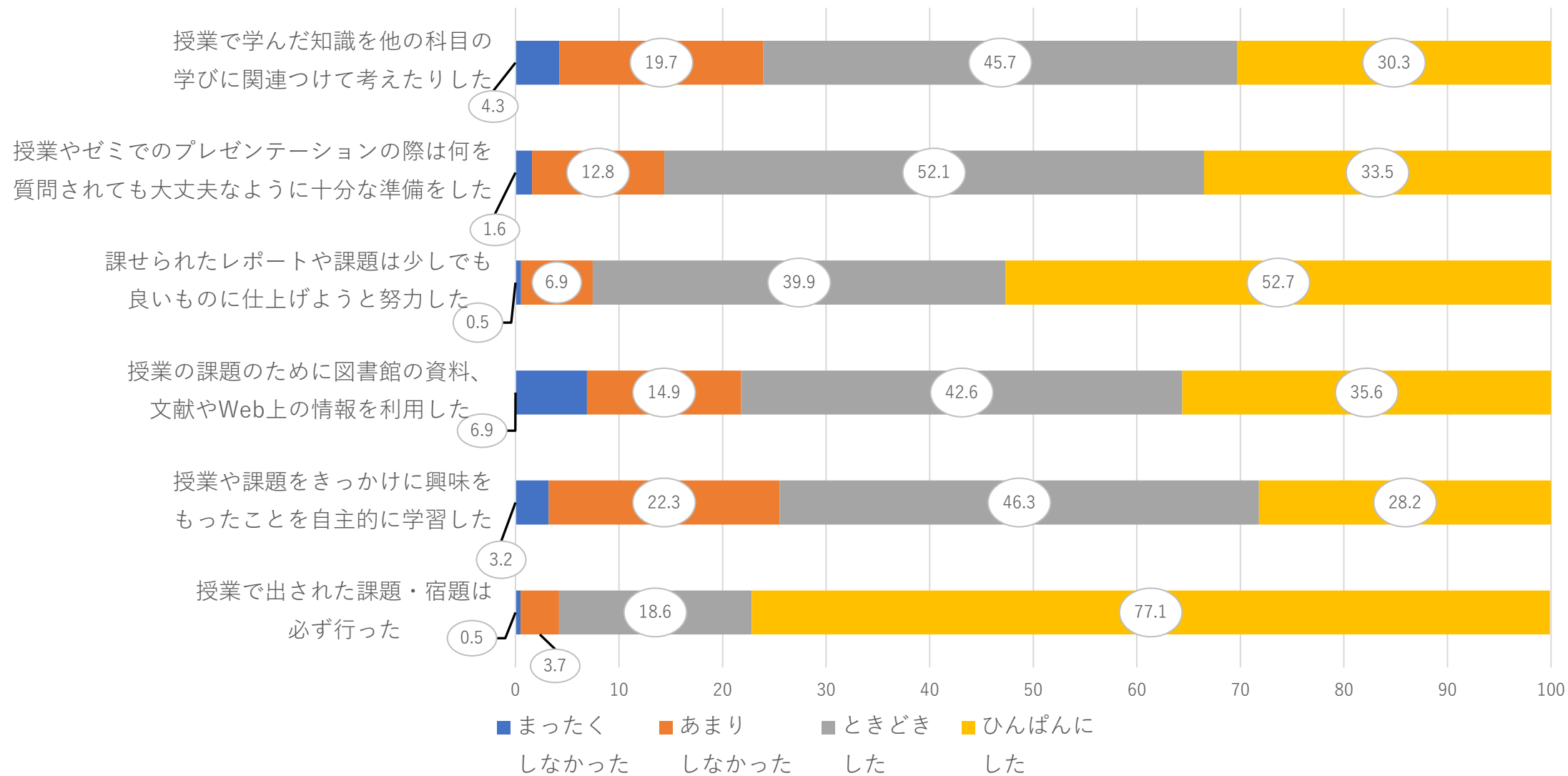
	n	%
男	41	20.8
女	156	79.2

	n	%
外国語学部・英語学科	97	49.0
外国語学部・中国語学科	28	14.1
外国語学部・観光交流文化学科	73	36.9

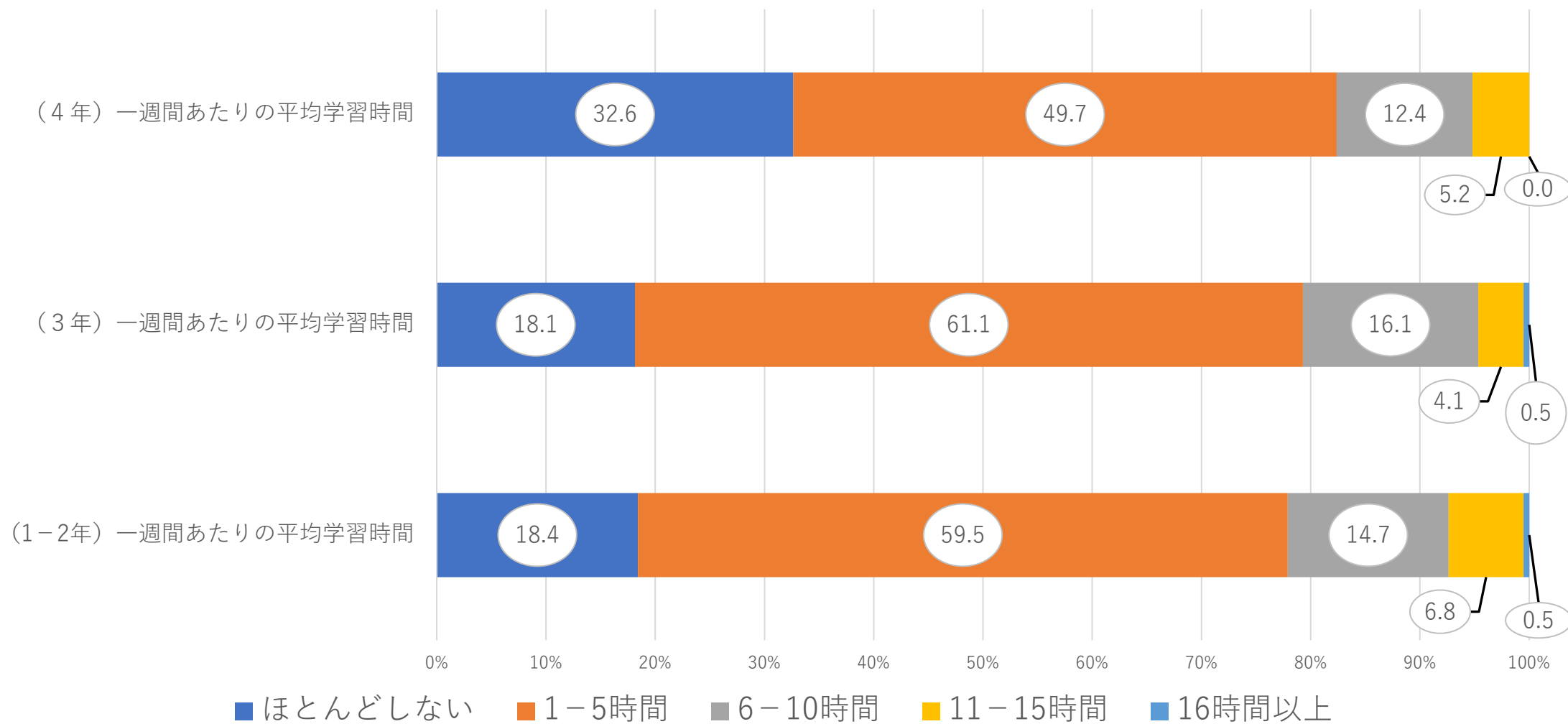
1. 授業の学習経験・学習態度



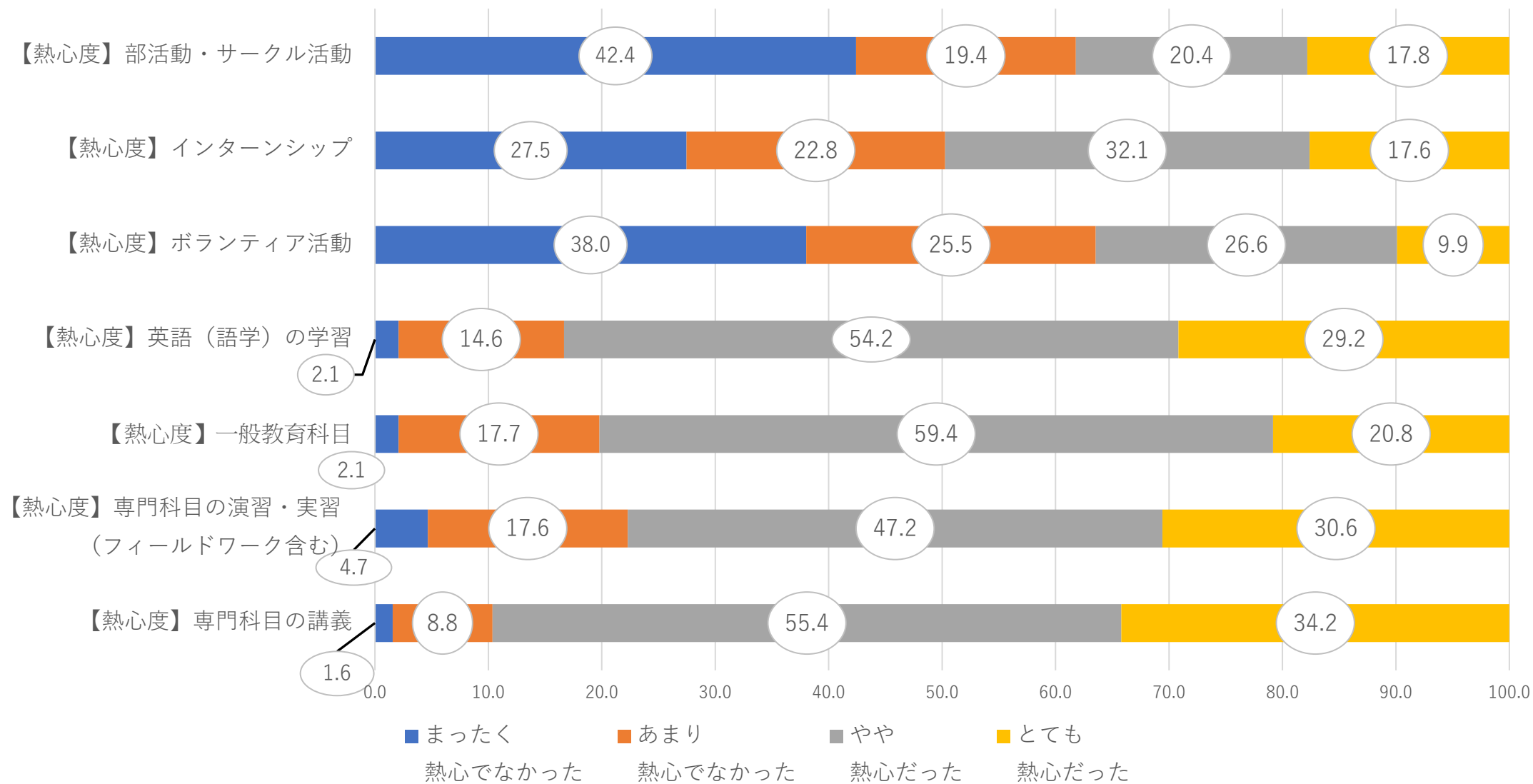
2. 【主体的・自律的】学習行動



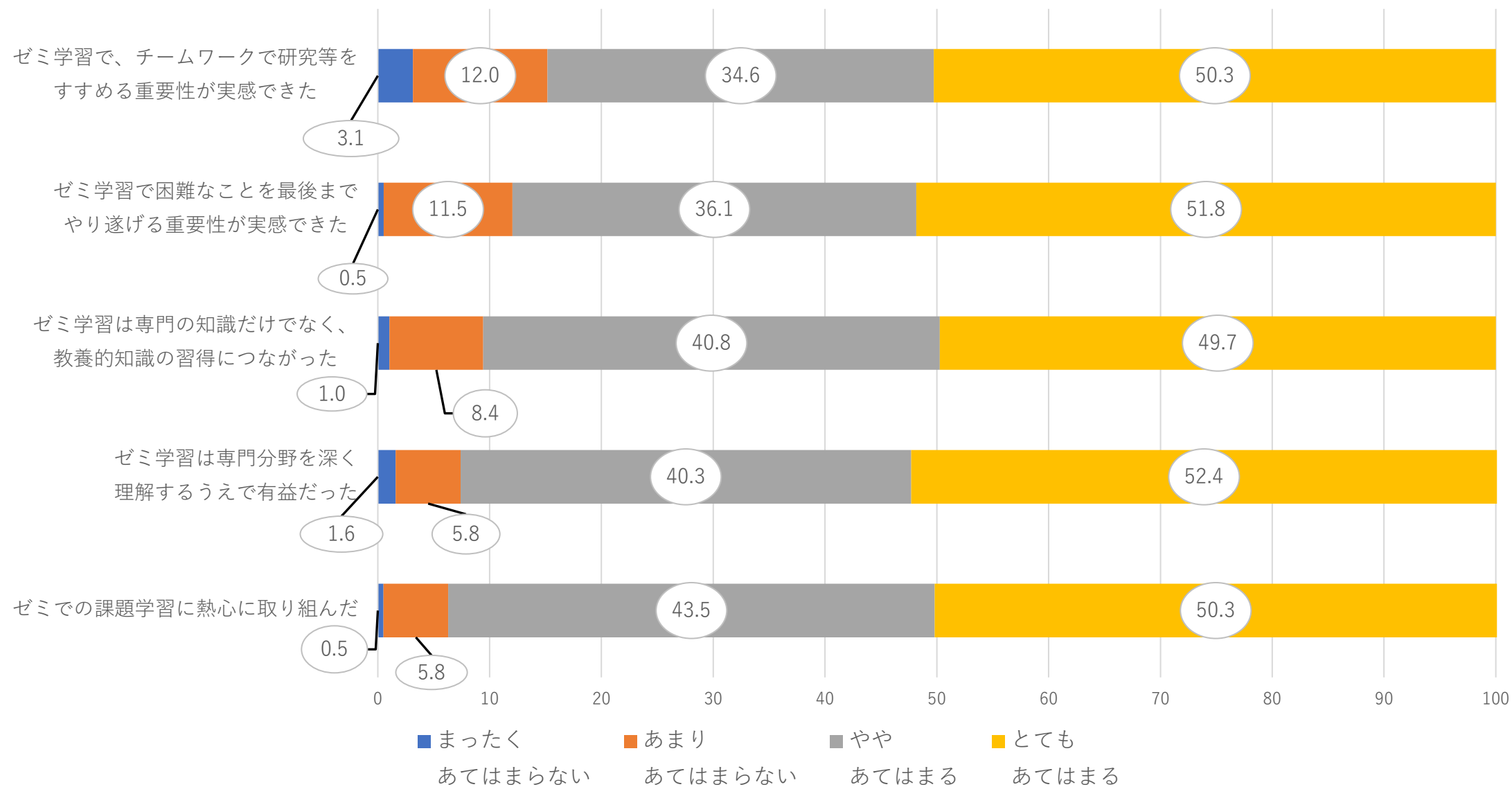
3. 1週間あたりの平均学習時間（自学自習時間）



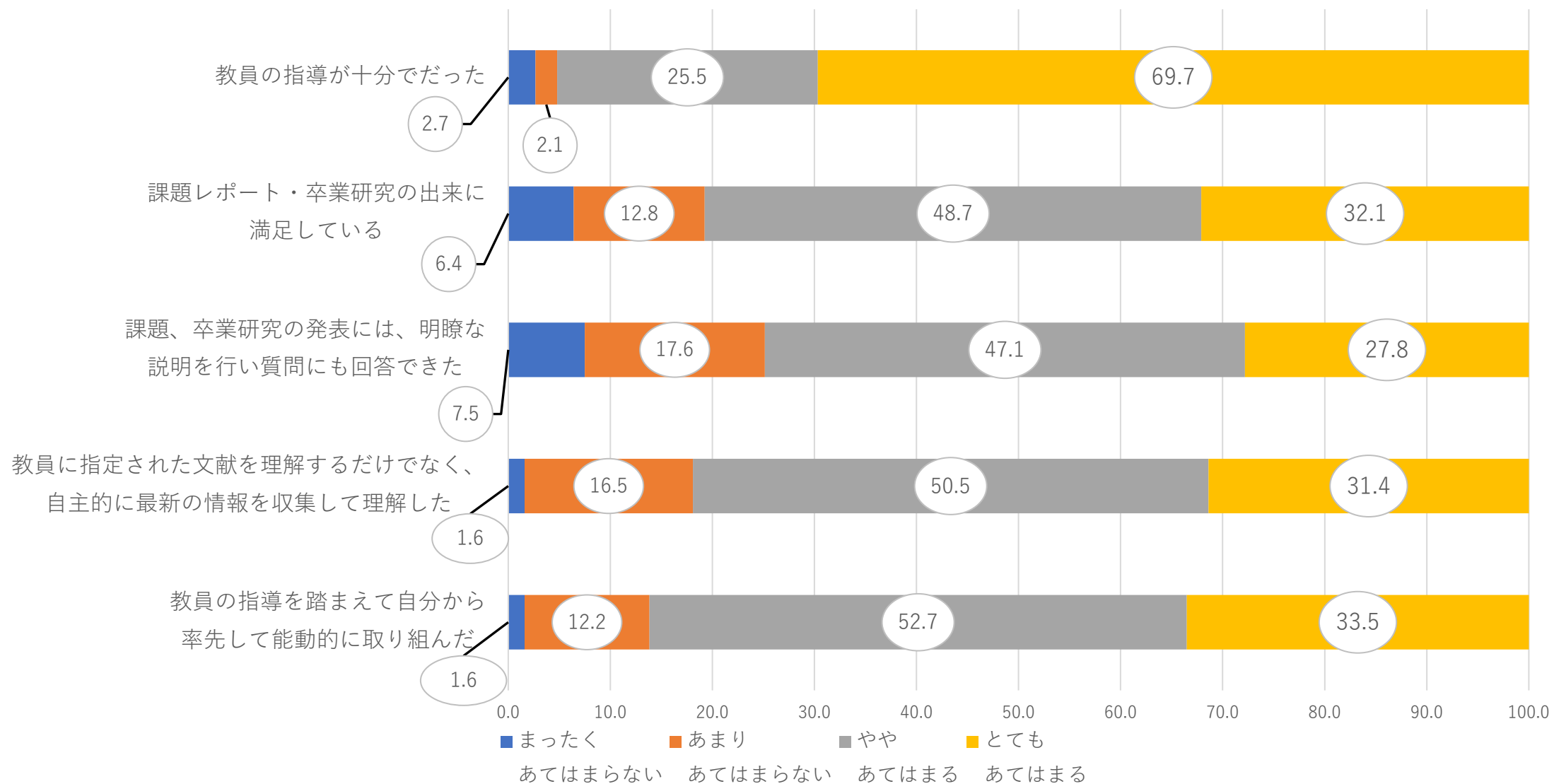
4. 【熱心度】 大学生活における意欲（学習意欲・正課外活動への意欲）



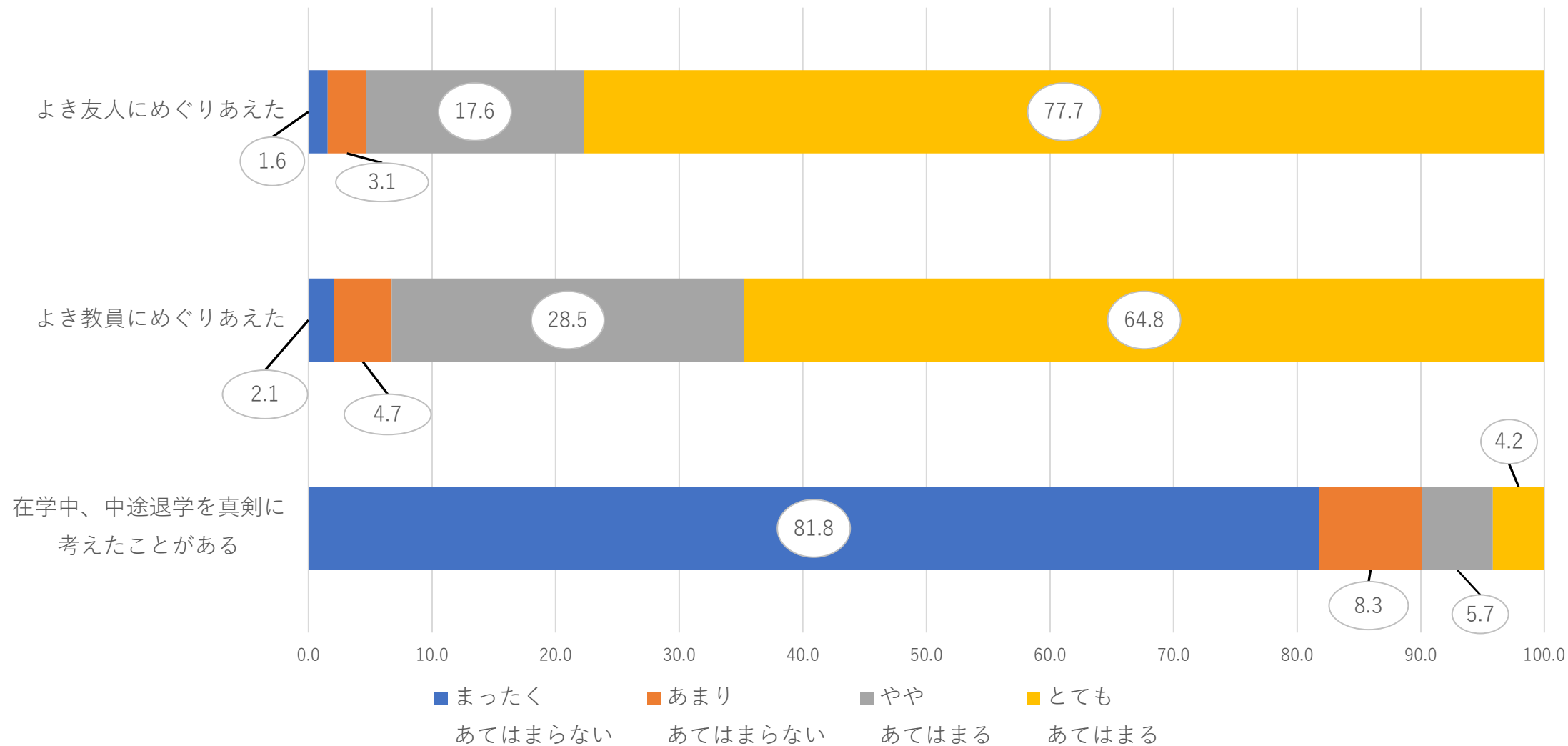
5. ゼミ学習 学習経験



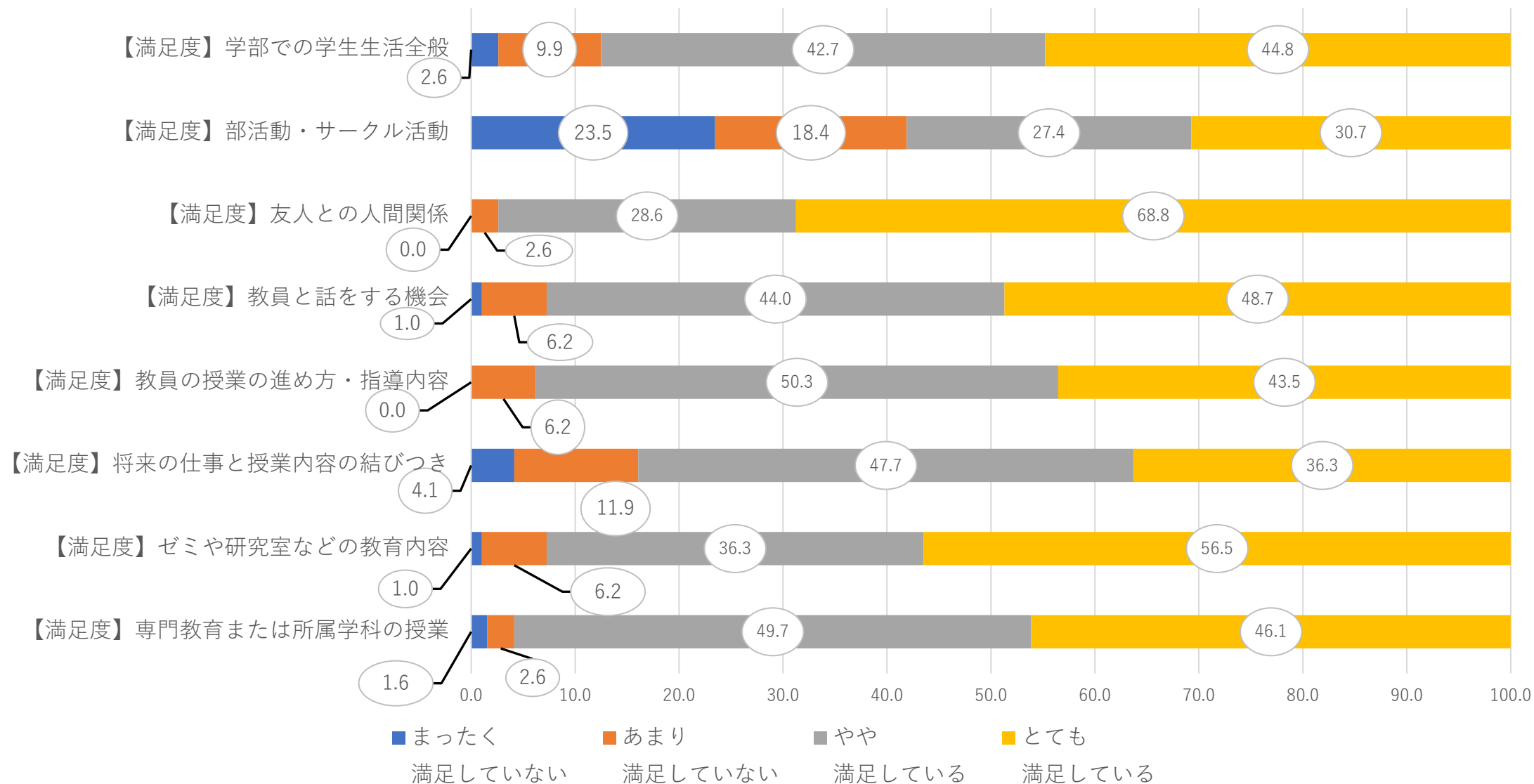
6. ゼミ学習 学習行動



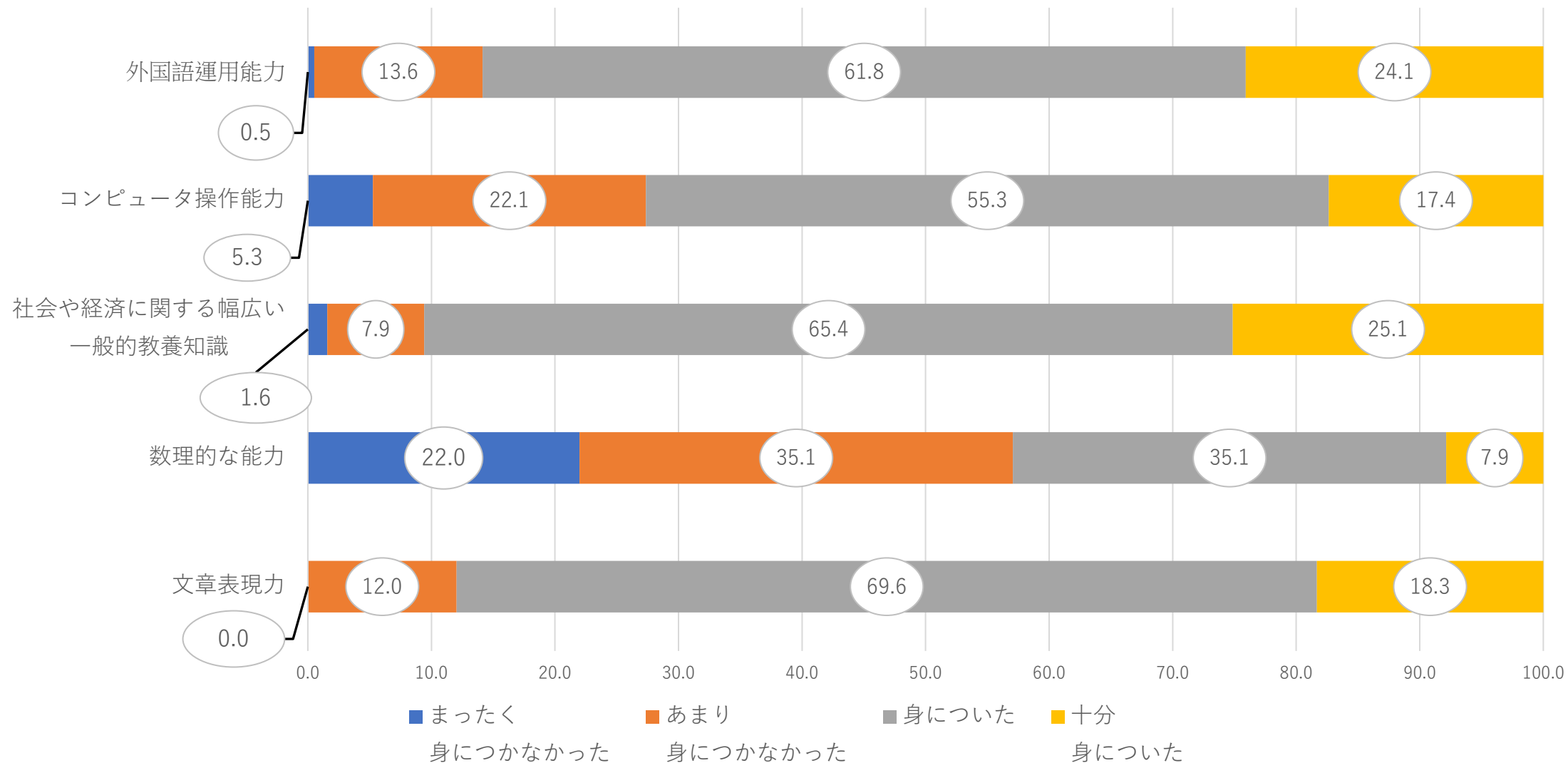
7. 人間関係等



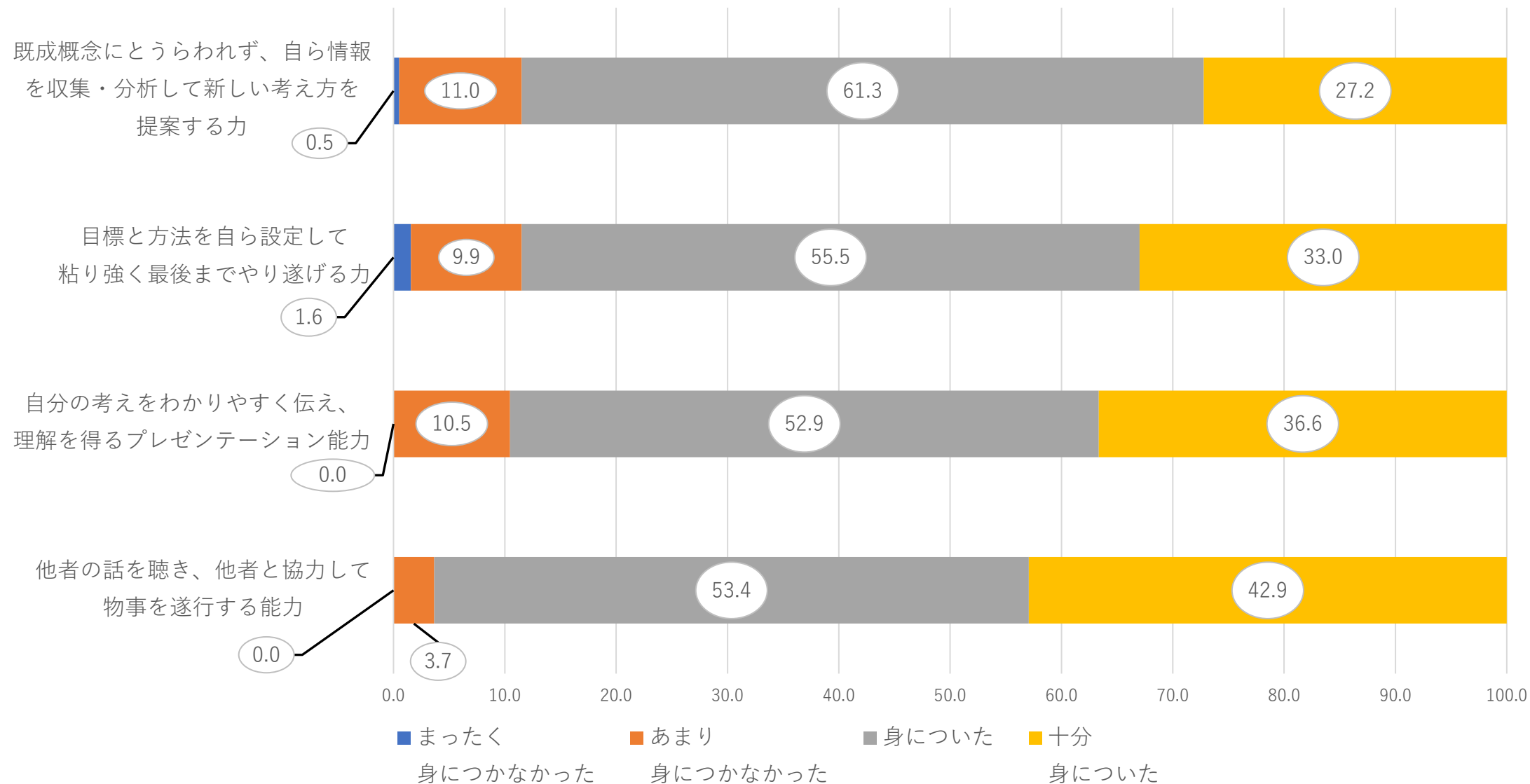
8. 大学生生活満足度



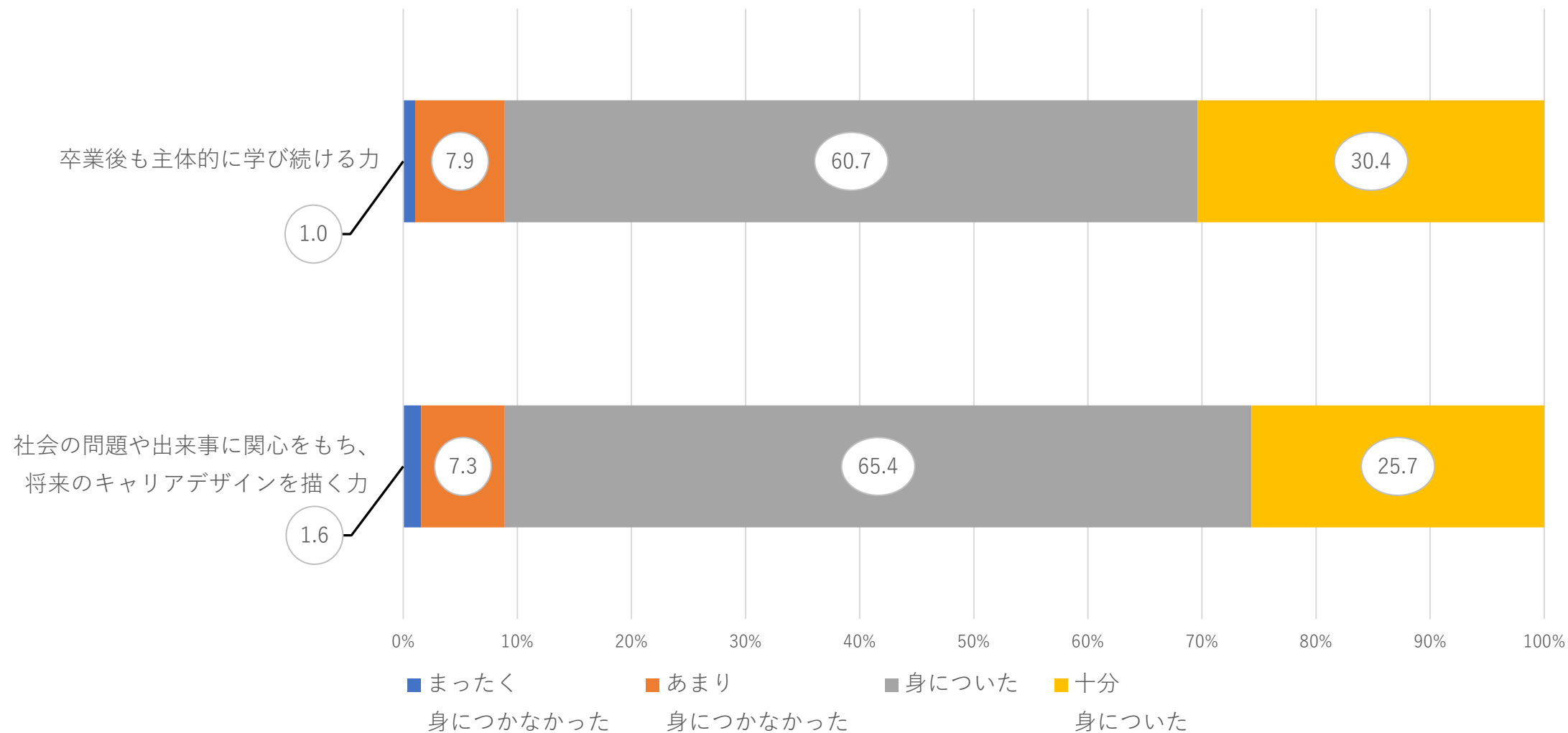
9. 知識・能力の獲得（１）（学士力：一般教養）



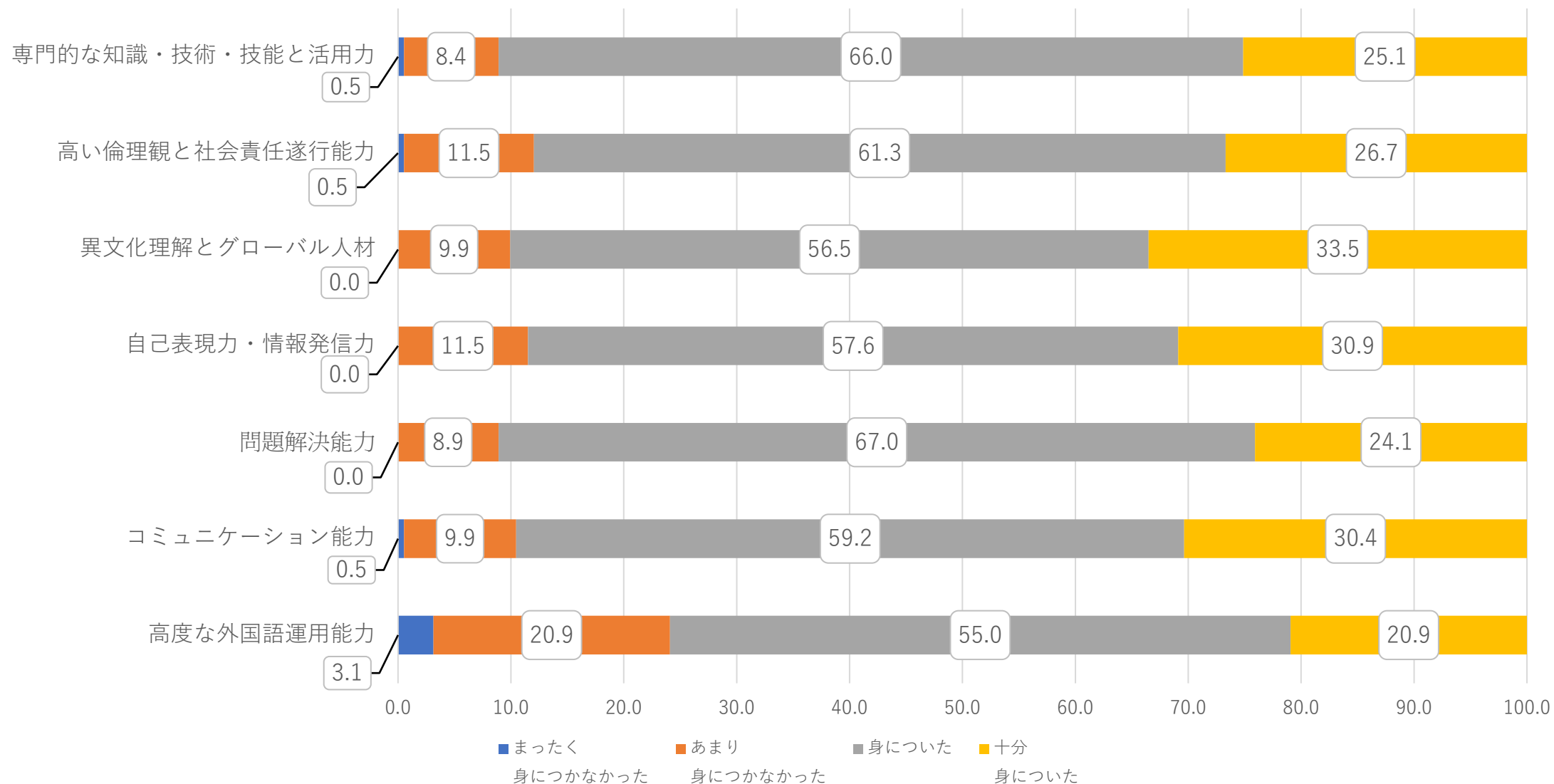
9. 知識・能力の獲得（2）（学士力：汎用的能力）



9. 知識・能力の獲得（3）（キャリア形成）



10. 【外国語学部】 ディプロマ・ポリシーに定められた能力の獲得



総評：外国語学部

2024年度の卒業生アンケートでは、多くの学生が授業に真剣に取り組み、主体的・自律的に学習していたことがうかがえる結果となった。特にゼミ学習においては、積極的・能動的な学びができたかどうかに対して肯定的な回答が9割前後となり、学部が重視するアクティブラーニングが各所で実践されていたことが推察される。自学自習の時間については1～5時間という回答が中心であったが、10時間以上取り組む学生も一定数存在し、学習意欲は全体として堅調であった。

大学生活全般への満足度も高く、ほぼすべての項目において肯定的な回答が9割前後を占めた。特に友人との人間関係や教員と話をする機会に対して、満足していた卒業生の割合が前年度よりも高かった。これは、1年次に新型コロナウイルス感染症対策の影響で活動が制限されながらも、学年の進行とともに通常の生活に戻り、本学部が注力してきた対面授業や課外活動といった「人と関わり合いながら学ぶ」環境が成果を上げたものと考えられる。

ディプロマ・ポリシーに定められた能力の獲得状況についても、前年度より肯定的な回答が増加した。前年度まで課題とされていた「高度な外国語運用能力」についても、前年度比7.3ポイント増の75.9%が獲得できたと評価していた。しかし、他項目に比べると依然としてその割合は低く、外国語学部における学びの中心であることも踏まえ、引き続き学部としての一層の取り組みが必要であろう。

全体として、学習態度や教育への満足度は良好であり、外国語学部の教育の質の維持と改善の努力が反映された結果となった。今後は、学生の目的意識や学外活動への関与をさらに高めるとともに、学生との協働による教育環境の整備を一層推進していきたい。